

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウイッシュ たかばた		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 15日		～ 2025年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2024年 11月 15日		～ 2025年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体をたくさん動かすあそびを多く取り入れ、発達に繋げている。	ラジオ体操を毎日全員で取り組み、体を動かす習慣をつくっている。バランスボール、トランポリン、大縄跳び、バスケ、ドッジボール等十分に体を動かして楽しめるあそびを子どもたちのやりたい気持ちに合わせて取り組んでいる。	5領域を踏まえて、月毎での計画を丁寧に行っていく。未就学児、小学生から高校生まで、年齢幅、発達の段階の差が大きいため、活動内容やグループ分けの工夫を行っている。
2	経験5年以上の職員が複数在籍しており、十分な職員配置がされている。	毎月数回、本部研修に参加したり、外部からの講師の研修に参加したり、職員のスキルアップ、意識向上に努めている。	現在も行っているが、定期的に職員間で会議、ミーティングを開き、チームワークよく円滑に施設運営ができるようにしていく。
3	季節に合わせたイベントやクッキング、感触あそび等で、腕や手、口へのアプローチで感覚を養っている。	公園等へのお出かけやクッキングで季節を感じられるように努めています。	普段のあそびやクッキング等で成功体験を増やし、自信につなげていく支援の強化を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内のスペースが狭い。 勉強等で利用できる個室はない。	元々の建物の構造上、設置が難しかった。	近隣の公園へ行き、広いスペースでのおにごっこやかけっこ、野球等のボールあそびもでき、楽しめるように工夫している。
2	父母会の活動支援や、保護者会等の開催がなかった。	コロナ禍以降父母会を設けていない。 平日仕事をしている方が多い。	電話やメール等での相談があった場合には、時間調整を行いながらご家族の思いに寄り添い、一緒に方向性を導き出せるように面談などを行っていく。 送迎時等にもご家族様のお困り事の相談、アドバイスを行っていく。
3	外部連携全般(病院、地域住民、地域子ども)。	年に1～2回地域でのゴミ拾いやお祭りに参加するのみであった。	少しずつでも外部との関係性を新たに構築し、定期的なイベントとして導入していきたい。